

今、何の病気が流行しているか！

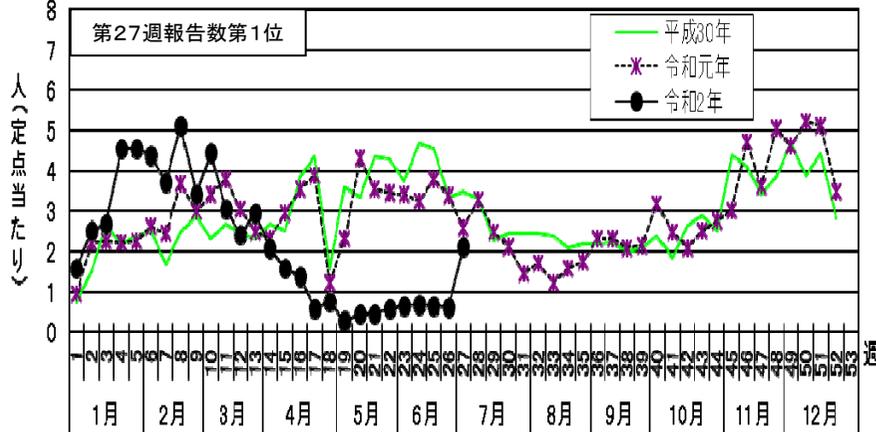
【感染症発生動向調査事業から】

令和2年6月29日（月）～令和2年7月5日（日）〔令和2年第27週〕の感染症発生状況

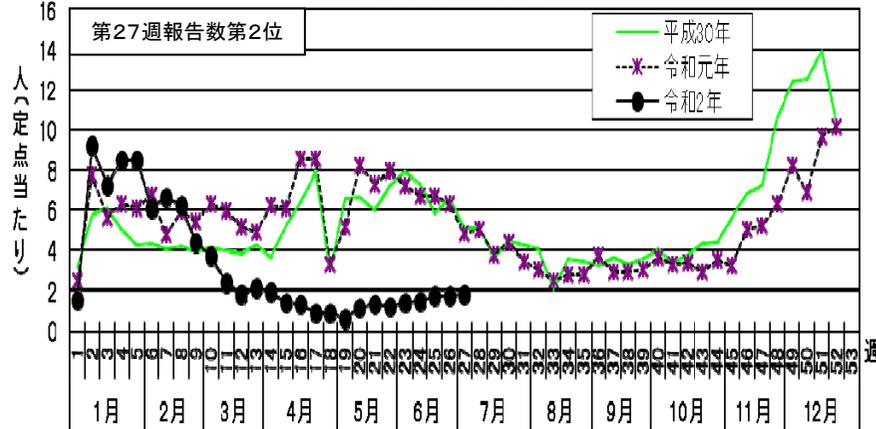
第27週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 2) 感染性胃腸炎 3) 突発性発しんでした。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.14人と前週(0.62人)から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は1.81人と前週(1.73人)から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。
 突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.62人と前週(0.57人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)



感染性胃腸炎発生状況(3年間)

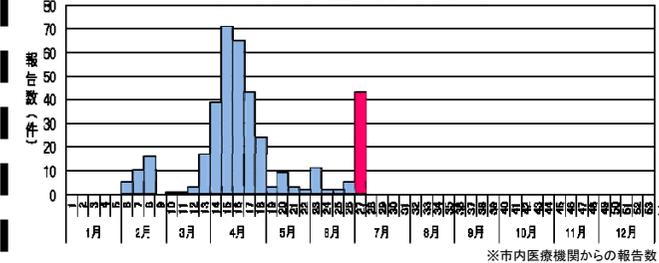


新型コロナウイルス感染症の報告数が急増しています！

現在、都心部を中心に新型コロナウイルス感染症の報告数が急増しています。川崎市においても、令和2年第27週(6月29日～7月5日)の報告が43件と、前週の5件から大幅に増加しました。年齢階級別では20～30歳代が全体の58.2%を占め、推定感染経路別では「家族内感染」及び「院内感染」が各18.6%、「確定患者との接触」が14.0%、「不明」が48.8%でした。

感染患者と何らかの接触があった事例が多いため、御自身の行動に注意するとともに、発熱や咳などの症状がみられる場合は外出を控え、医療機関などに相談するようにしましょう。

川崎市における新型コロナウイルス感染症の診断週別発生状況(令和2年)



川崎市における新型コロナウイルス感染症の年齢階級別発生状況(令和2年第27週)



市内における新型コロナウイルス感染症の推定感染経路別発生状況(令和2年第27週)

